

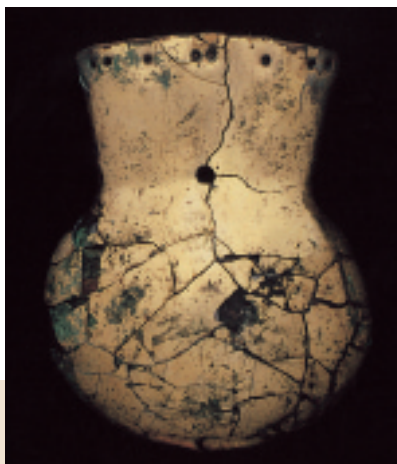


●喜月翁句碑

よろこびし月は山端にはかなくも。1700年代後半に活躍した郷土出身の俳人・喜月翁の句碑が蓮光寺境内に残っています。(蓮沼二)

●蕪木5号墳出土品

(国立歴史民俗博物館所蔵) 須恵器3点、銅製馬具、鉄製直刀、金銅製巾着型容器(写真)、金銅製刀子をはじめ古代史的に貴重な多数の副葬品が出土しています。(松尾町蕪木)



●島戸境1号墳

耕作中に鏡が出土したことから発掘調査が行われ、麻生新田の畑の中から、鏡4点、首飾りに使われた玉類252点、刀子(小刀のようなもの)1点が出土しました。いずれも死者に供える副葬品です。(麻生新田)



玉類

大地の記憶

この地に最初の人類の足跡が記されたのは、旧石器時代に遡ります。太古の海岸線は現在よりもかなり内陸部にあったと考えられ、浪切不動院のある石塚山には波に削られた痕跡が残されています。その後、気温が下がり九十九里平野ができること、縄文時代の早期〜後期、弥生時代にかけての遺跡も発見されています。太平洋の豊かな恩恵を受け、自然とともに暮らす様子が貝塚などからうかがわれます。

古墳時代になると地域に勢力を伸ばす豪族により古墳が数多く築かれ、島戸境1号墳や蕪木5号墳などからは貴重な副葬品も多く出土しました。

律令国家が成立すると、当地は山辺郡や武射郡に組み込まれていきます。この時代、九州沿岸の守備に派遣された防人の半数は房総出身者と言われ、万葉集には山辺郡出身の防人の歌も収められています。

中世になると、千葉氏など有力な武士の支配を受けるようになります。成東城跡をはじめ市内に点在する戦国期の城跡から

●木造四天王立像(勝覚寺)

持国天、増長天、広目天、多聞天ともに2mを超える巨像で、1327年頃の製作と推定されています。(松ヶ谷)



●浪切不動院

石塚の森の中腹にある岩石上に建てられた朱塗りの不動堂。現在の本堂の建立は、江戸初期まで遡ると考えられています。(成東)

- 旧石器時代
紀元前18000ころ
◎上人塚遺跡・四ツ塚遺跡
- 縄文時代前期
紀元前4000〜3000ms
◎尖頭器が山室から出土する
- 古墳時代
◎和邇臣祖彦意邪都命の孫彦忍人命が武社(武射)国造となる
- ◎島戸境1号墳、北野5号墳、大堤権現塚古墳、山室姫塚古墳、朝日ノ岡古墳、蕪木5号墳などが築造される
- 729〜748(天平年間)
◎僧行基が浪切不動院に本尊を安置したと伝える
- 935(承平5)
◎上総国に市原・海上・畔蒜・望陀・周准・埴生・長柄・山辺・武射・天羽・夷隅の11郡が置かれる
- 1196(建久7)
◎お龍頭の舞が始まる
- 1228(安貞2)
◎印東四郎成東城主となる
- 1287(弘安10)
◎鍋木胤泰(孫八郎)、嫡子家胤に鍋木城を譲り、次子常泰とともに上総国無木郷に移り、常泰を無木郷の領主とする
- 1314(正和4)
◎上大蔵板碑建立
- 1346(貞和2)
◎妙見社板碑建立
- 1352(正平7)
◎定利尊氏、小松村を鎌倉円頓宝戒寺に寄進
- 1373(応安6)
◎虚空蔵山板碑建立